



スポーツグラスをかける山本監督。光田悠哉、姫野優也ら投手指導にも手腕を発揮する

レ経験を持つ山本監督。その人生はまさに波乱万丈だが、この男を知る者は必ず山本監督を語る中に「本気」という言葉を入れてくる。決して雄弁ではない教え子たちの言葉の中にも、きっちりこの2文字が登場した。

生徒たちが「本気」を感じるのは何もグラウンドだけではない。寝食を共にする寮生活の何気ない一コマにも、山本監督の本気、愛があふれている。

寮ができて間もない頃の山本監督は、よく朝の4時に起きて寮生のために弁当を作った。2、3時間の睡眠時間は当たり前。得意のから揚げを残して帰って来られた時にはガツクリ肩を落としたが、そんな姿を生徒たちに見て感じていった。「俺たちのためにここまで…」と。今も、時に夕食が少なすぎると思

ば、スーパーに走り食材を調達。蒸し豚、豚、焼きそば：などを作って振る舞う。「豚足なんて最初は食べなかったのをキムチとご飯と一緒に出して『とにかく食べ』と。ちゃんと食べたか骨までチェックしますから食べないわけにはいかないんです(笑)」

こんな一コマもある。たとえば寮の規則を破るなどした生徒は山本監督から呼び出しを食らう。そして説教を受けたあとは山本監督の4畳半の部屋で一一緒に寝るのだという。

「多い時は7人ですよ」

4畳半に？

「なんとか寝られます。生徒には『お前らもいやかしらんけど、50前のおっさんもこんな狭いところで寝たないんや。だからルールはちゃんと守れよ』って言うんですけれどね。子どもは順繰りで変わっても、こっちは1カ月くらい続く時もありますから」

これも簡単にできることではない。しかし、そこにまた子どもたちは山本の「本気」を感じるのだろう。

「悪いことしてペナルティーを課するのは簡単ですけど、それだけでは愛が足りないですよ。それにね、朝起きて『お前らいつでも寝とんじや』ってやるのもなかなか楽しいところもあるし、あとになって子どもたちのいい思い出にもなるんじゃないかな。大人になっ

「風呂を上がるのがはかより早かったんで。『やったんか？ 早いやる？』となって、バレました(笑)。1週間くらい先輩2人と一緒に。監督はベッドで、僕らは地べた。緊張しながら寝ました(笑)」

壁際のベッドで寝る山本に平行して1人その頭と足元で直角に各1人ずつ、計4人の雑魚寝。この春の戦いを支えた主戦の光田悠哉も「何回かあります」と続けてきた。「僕は3日くらいでしたけど、なかなか寝られなかったです(笑)。空気感が違うというか、常にちよつと気を配つとかなんといけないうか。でも、普段は優しいですし選手第一。こ

れだけやってくれる人はいないと思います」

このエネルギーと、関わり方。なぜ山本監督はそこまでできるのか。

「みんな自分の子どもだと思ってますから。昔は近所のオッチャンたちが地域の子どものために『将来は町を支えてくれる大人になるんだから』って愛情をもって育てたでしょ？ そんな感じですかね。根本は愛ですよ、愛」

自分の子どもだと思っているから本気で怒り、本気で褒め、心底聞かれる。まさにザ・教師の言葉のはずだが、今の時代に聞くところか懐かしさを感じてしまう。

「心から腐ってる子なんかいません。環境だけ。ただ、子どもは完全に見透かしますからね。こいつは本気でやるヤツかどうかって。だから子どもになめられない心を持っていないと教育なんかできない。だけどそこで本気で関わってくれる人に触れれば、心が変わって態度も変わってくる。先生が本気になれば生徒も本気になりますよ」

過去10年の大阪の甲子園出場校		
年	春	夏
2005	大産大付	大阪桐蔭
2006	履正社 PL学園	大阪桐蔭
2007	大阪桐蔭 北陽	金光大阪
2008	履正社	大阪桐蔭 近大付
2009	PL学園 金光大阪	PL学園
2010	大阪桐蔭	履正社
2011	履正社	東大阪大柏原
2012	大阪桐蔭 履正社	大阪桐蔭
2013	大阪桐蔭 履正社	大阪桐蔭
2014	履正社	大阪桐蔭
2015	大阪桐蔭	?

※2008年夏は記念大会で出場枠増

夏の大阪事情

近年の大阪は大阪桐蔭、履正社の「二強時代」。続く3番手に入ってくるのが大阪借星学園だ。一昨春秋ベスト4、昨春ベスト8で今春が準優勝。今春も決勝では大阪桐蔭に1対5も、失点は内野守備の乱れや三塁手の本塁送球が走者に当たる不運も重なってのもの。普通に守れていれば、さらにスコアは拮抗していただろう。大阪の夏はノーシードだが3回戦までは南と北でブロックが分かれる。そのため山本監督は「桐蔭と履正社と当たるなら光田が元気なうちの4、5回戦がベスト」と語る。抽選の行方にも大いに注目だ。

た時「俺らの先生は悪いことしたら一緒に寝かされてな、4畳半でしんどかったわ」って。そういうのなんかいいじゃないですか」

話の途中、山本監督が「昨日まで俺の部屋で生活しとったヤツ？」と選手たちに聞くと、すぐ近くにいた選手が「はい」と手を挙げた。どこか嬉しげに。「お前なにしたんやった？」と山本監督が聞くと「ウソつきました！」と、また嬉しげ。そこで各選手に聞いて回ると次々と経験者が発覚。たとえば倉本颯はこんな事件を覚えてくれた。

「寮の風呂では湯船の中で手首を鍛える筋トレを1000回やらないとダメなんです。それを500回しかやらなかったのがバレて、監督の部屋行きです」

なぜバレたの？

「さあ、大阪借星学園の躍進理由も感じ取ってもらったところで、夏へ向けた決意を語ってもおつ。まずは田端から。」

「大阪桐蔭ともう一回やりたい。ミスもなくしてできることをしっかりとやりやれば、絶対勝ちたいですね。ああいうエリートみたいなチームに勝ったら相当気持ちいいはずなんです」

兄が大阪桐蔭で全国制覇を果たした田端は力を込めた。そして山本監督。

「今の大阪はやっぱ大阪桐蔭と履正社で、ここをいかに倒すか。選手は春の戦いで自信がついたはず。桐蔭とやると『ユニホーム』だけで3点は取られるところがあった。でも、春は1週間で5試合も投げた光田で、長打は1本も打たれなかつたし、守りのミスとかで取られた点がほとんど。もう一回やれば…という気持ちはあります。ただ、あとは春は僕の気合いが伝わりすぎて、選手が力んでました。夏に再戦があるとしたら一番気をつけたいといけないのはそこ(笑)。なんとかこの子たちと喜び合いたい」

山本監督と出合い、生まれかわった子どもたちと、悪夢の中で野球に救われ、再び前に進むことができた山本監督。負けられない思いと監督譲りの「本気」を手に入れた大阪借星学園ナインは、「二強」の背中は視界に捉えながら、初の甲子園へ辿り着けるのか。